

令和8年3月19日

卒業式式辞

雨も上がり、東京の桜も開花を迎えようとしているこのよき日、

皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さんに卒業証書を渡しました。この卒業証書は、中学校三年間、そして義務教育九年間の全課程を修了した証です。皆さんは、この九年間で多くのことを学びました。勉強だけでなく、部活動や様々な行事を通して、心も体も大きく成長しました。新たな世界に飛び出す準備は万全です。上原中学校で培った力を存分に発揮してください。

ご来賓の皆様、本日はご多用の中、ご臨席を賜りましてありがとうございます。本日、百六名の子供たちが、このように立派に成長して卒業の日を迎えることができました。子供たちは上原中学校を卒業しますが、地域の子供であることにかわりありません。これからも温かく見守っていただければ幸いです。

保護者の皆様、九年前、小学校に入学した時は、小さかった子供たちがこのように大きく成長し、義務教育を修了する日を迎えました。この九年間はあっという間のようでしたが、振り返れば、コロナ禍をはじめ、様々なことがありました。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。そして、上原中学校での三年間、多くのご理解とご協力をいただいたことに深く感謝いたします。ありがとうございます。

卒業生の皆さん、皆さんは高校受験という大きな壁を乗り越え、卒業の時を迎えました。今はほっとしていると思いますが、これからもいろいろな困難が皆さんを待ち受けています。

「江戸の寒さくらいは体にいい」、私の好きな言葉です。昔の映画、「赤ひげ」の中での台詞です。少くく寒い方が体にいいのです。寒いとすぐにヒーター、暑いとすぐにクーラーでは、寒さや暑さに強い体はつくれません。心も同じです。困難なことや苦しいことがあるからこそ、心も成長するのです。たいへんだからといってすぐにあきらめたり、人にたよったりしては、心は成長しません。これから皆さんは困難なことやつらいことに次々に出会います。がんばって乗り越えてください。その分、人は成長します。充実感を得ることもできます。そこには新しい世界が広がっています。

ただ、どうしても一人では乗り越えられないときもあります。その時は、まわりの人に遠慮なく助けを求めてください。皆さんは一人ではありません。友達、家族がいます。地域の方もいます。上原中学校の先生たちも、皆さんの味方です。いつまでも応援しています。

皆さんが、高校、そして、さらに広い世界で活躍することを期待して式辞といたします。

令和八年三月十九日

渋谷区立上原中学校 校長 加納一好